






# 水害について知る

水害とは、大雨や台風などの多量の降雨によって引き起こされる災害です。日本では、毎年のように、梅雨期の大雨や台風などにより、平年の1か月の雨量を超えるような雨が短時間で降り、河川の急激な増水による氾濫や土砂災害などの社会生活に大きな影響を及ぼす災害が発生しています。

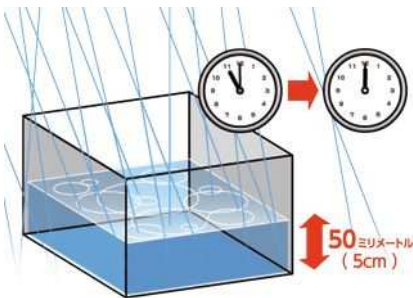
## 雨の強さと降り方(1時間雨量)

※1時間に20～30mmの雨でも市街地では冠水する場合があります。

10～20mm未満 やや強い雨	20～30mm未満 強い雨	30～50mm未満 激しい雨	50～80mm未満 非常に激しい雨	80mm以上 猛烈な雨
				
地面一面に水たまりができ、話声が聞き取りにくくなります。長雨になりそうなら警戒が必要です。	土砂降りの雨。傘をさしても濡れてしまうほどの雨です。小河川の氾濫や、崖崩れの心配もあります。	バケツをひっくり返したような激しい雨。山崩れ、崖崩れが起こりやすくなります。道路規制も行われます。避難の準備を。	滝のように降り、あたりが水しぶきで白っぽくなります。中小の河川は氾濫し、水害発生の可能性が高まります。	息苦しくなるような圧迫感があり、恐怖を感じます。雨による大規模な災害が発生する恐れが強く、嚴重な警戒が必要です。

## 1時間に50mmの雨とは

テレビの気象情報などを見ていると「1時間に〇〇ミリの大雨が・・・」と説明しているのを良く聞きますが、実際にイメージしにくいと思います。では1時間50ミリの雨とはどの程度の雨なのでしょうか。



「1時間に50ミリの雨」というのは雨水が別の場所に流れず、そのままたまる状態で、「1時間に雨水が50mmの高さまでたまる」規模の雨です。

傘を開いたときの面積が概ね1平方メートルで、1時間傘を差していると、傘には牛乳パック50本分の雨が当たることになります。

まわりの雨水があつると・・・

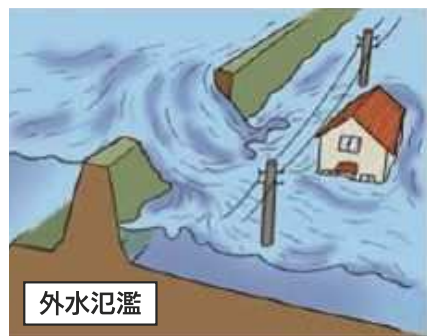
## 内水氾濫と外水氾濫

降った雨を排水処理できず、建物や土地・道路が水に浸かってしまうことを内水氾濫といいます。外水氾濫と比べて、浸水規模は小さいですが、いたるところで発生しやすい特徴があります。

外水氾濫は、河川の堤防から水が溢れ又は破堤して、家屋や田畑が浸水することをいいます。外水氾濫が発生すると広い範囲が浸水して、大きな被害が発生する恐れがあるので特に注意が必要です。



大雨が降ると川の水位が上がり、排水されにくくなり、下水道などがあふれてしまいます。



崩れた場所は一気に拡がり、勢いよく水が流れ出し、家などに襲い掛かります。